

2016年 参議院選挙「街頭演説」(参考例)

市民のみなさん。宮城県労連です。県内で2万人の働く仲間が参加する労働団体です。

いよいよ、6月22日公示、7月10日投票の参議院議員選挙がたたかわれます。今度の参議院選挙は、安倍政権の暴走ストップ、政治を私たち国民の手に取り戻す、歴史的な政治決戦になります。

私たち宮城県労連は、今度の参議院選挙は、国民、労働者のくらしと平和にとって「3つの争点」があると考えています。

争点の1つ目は、「安保法制」という名の「戦争法」の廃止か、それとも存続を許すのかを選択する選挙です。2度と戦争しないと誓った憲法9条を踏みにじり、戦後70年間、海外での戦争で1人も殺さない、殺されない国として歩んできた日本の未来を、私たちの子どもたちに、誇りをもって引き継ぐことができるかどうかの選択が問われています。

争点の2つ目は、大企業や一握りの富裕層だけが優遇されるアベノミクスの存続か、それとも庶民や中小企業・小規模事業所を潤し、行き詰まった地域経済を活性化する国民本位のくらしの実現かを選択する選挙です。消費税を8%に引き上げたため、経済は落ち込み、いまだ回復していません。働くものの実質賃金も5年連続下がっています。一方、大企業の内部留保は301兆円。史上空前額を記録更新しました。10%消費税はもつてのほかです。

争点の3つ目は、労働基準法の「1日8時間・週40時間労働制」の廃止を許すのか、それとも、人間らしく働くルール「労働基準法」を守り抜くのかの選択です。どれだけ長く働いても残業代を払わなくて済む「残業代ゼロ法案」、金銭で解雇が可能になる「解雇自由化法案」など、絶対に許すわけにはいきません。安定した良質な雇用実現のため、全国一律最低賃金1千円以上の引上げと、非正規雇用を減らし、安定雇用を増やすことこそ、緊急に求められているのではないのでしょうか。

市民のみなさん。宮城県労連です。県内で2万人の働く仲間が参加する労働団体です。

いま、日本の政治が面白くなっています。私たち市民の世論と運動が、政治と政党、政治家を動かしています。

昨年来の「安保法制」廃止の全国の運動と世論が「野党は共闘を」という世論に発展し、この参議院選挙を前に、全国32カ所の1人選挙区のすべてで「野党統一候補の擁立」が実現しました。この宮城では、全国に先駆け、民進党参議院議員の桜井充さんを民進党・共産党・社民党、そしてオール市民連合の統一候補として誕生しました。「政権与党」対「野党プラス市民連合」という、国政選挙史上初の対決の構図です。これは、画期的で歴史的な国民の運動の成果ではないのでしょうか。

野党共闘は国会内での「安保法制廃止」を求める「野党共同法案」の提出をはじめ、介護・福祉従事者・保育士の「賃金引き上げ法案」や「長時間労働規制法案」など、衆参両院で共同提出した法案が13本に広がるまで連携を強めています。さらに「10%消費税阻止」、「TPP反対」、「貧困格差是正」、「原発依存脱却」という国会外での国民的運動とも連携した共同の広がりをつくりだしています。

私たち宮城県労連は、野党統一候補の「桜井充参議院議員」とともに、安倍自公政権の打倒をめざす野党の勝利と躍進のために、たたかいに立ち上がりました。

市民のみなさん。働く仲間みなさん。そして新しい有権者として、初めて政治に参加する18才選挙権の対象となった青年のみなさん。ともに新しい政治、国民、働くものが主人公といえる社会の実現のために、力を合わせましょう。